

保険者を訪ねて

剣豪とフルーツの里  
錦町



《 錦町の概要 》

人口	10,571 人	
国保被保険者数	2,567 人	
後期高齢者数	1,704 人	
世帯数	3,828 世帯	
	国保世帯数	1,416 世帯
医療機関等数	医科	7 機関
	歯科	4 機関
	調剤薬局	3 薬局

(平成 31 年 4 月末現在)

担当課	職員	非常勤職員等
健康保険課		
保険・年金係	4 人	1 人
健康増進係	6 人	4 人
高齢者支援係	5 人	5 人

錦町は、球磨郡のやや南に位置し、町内の中心部を国道 219 号線、日本三代急流のひとつでもある球磨川が東西に横断しています。

総面積 85.04 km<sup>2</sup>、その 58% は山林で、南部山岳地帯（標高 1,000m）より北に向かって傾斜しており、町内中心部は標高 157.37m に位置しています。

キャッチフレーズの「剣豪とフルーツの里」と称していますように、江戸時代の初期、タイ捨流を編み出し、東の柳生、西の丸目と東西日本一と呼ばれた「丸目蔵人佐」が晩年を過ごした地であります。

特産品は梨、桃等のフルーツで、豊かな自然に囲まれた町です。

健康保険課の職員の皆様



様子  
インタビューの



錦町役場

## 錦町

は、医療費に占める人工透析の割合が高いことから、平成 24 年度から糖尿病の発症予防事業を、平成 26 年度からは重症化予防をメインに国保ヘルスアップ事業に取り組まれています。

また、平成 28 年度からは生活習慣病予防のため、青年期前の健診が必要ではないかと考えられ、「中学 3 年生の健康診断」を実施されています。

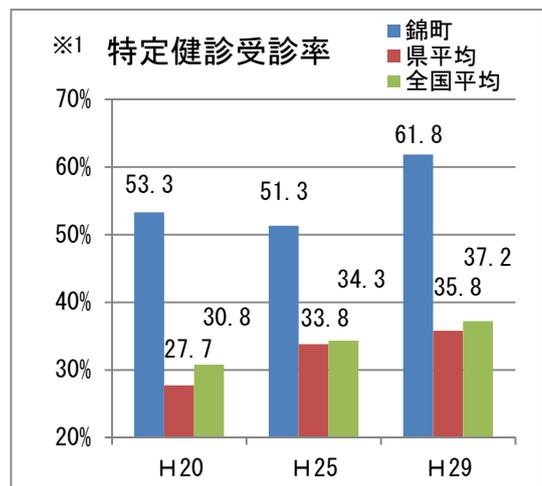
そこで、今回は事業 4 年目となる「中学 3 年生の健康診断」など、医療費適正化に向けた取り組みについてお話を伺いました。

## 医療費適正化へ向けた取り組み

### ～特定健診受診率と特定保健指導実施率の向上～

錦町では、特定健診を健診機関に委託し、集団健診・個別健診を実施しています。特定健診受診率<sup>※1</sup>は、平成 27 年度 63.5%、平成 28 年度 61.9%、平成 29 年度 61.8%と、国の目標値である 60.0%以上の受診率を維持しています。

令和 5 年度までに錦町の目標値 65.0%を達成できるように、(1)～(3)に取り組み、課一丸となって受診率向上に努めています。



#### (1) 未受診者訪問

夏に実施する集団健診後に、各地区担当の保健師・管理栄養士と健康推進員（町内 26 地区の代表者で構成）で未受診者宅へ訪問し、特定健診を受診していただくよう呼びかけを行っています。

#### (2) 地区毎の総会

年度末に実施する地区毎の総会において、健康推進員等に保険者努力支援制度の内容や重要性について説明するとともに、町内 26 地区の特定健診受診率を示すなど、自治区の状況を把握し、地区毎に受診率を競い合えるよう工夫しています。

#### (3) 情報提供事業

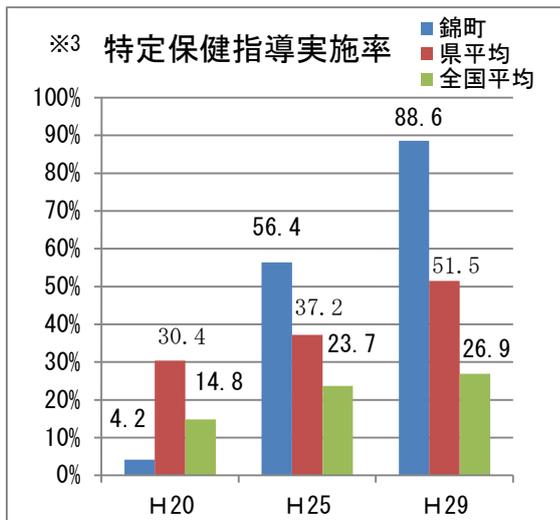
今年 8 月から新規事業として、かかりつけ医で検査を受けている方については、被保険者同意のもと、錦町が医師から検査データの提供を受け、特定健診結果のデータとして活用できる取り組みを開始しました。

特定健診受診率向上のため、人吉市医師会や町内の医師に協力いただけるよう本事業の意義等の説明を引き続き行いたいと考えています。

この他にも、被保険者に特定健診を身近に感じていただけるよう、時事ネタを盛り込んだユニーク感溢れる「啓発チラシ」※2を作成しています。



※2 特定健診啓発用チラシ



現在、本町の特定保健指導実施率※3は、平成27年度85.4%、平成28年度88.8%、平成29年度88.6%であり、国や熊本県の実施率平均値と比べると高水準です。

平成28年度以前は、保健指導を本町の保健センターで来所中心に行っていましたが、被保険者の個別事情に考慮し、平成29年度からは個別訪問を中心に実施しています。

実際に、個別訪問を行うことで、対象者の生活環境が見え、以前と比べ、相談を受ける回数も増えるなど個別訪問を行うメリットが多くあることに気付かされました。

本町の職員間で情報共有しながら、対象者のニーズを汲み取り、より良い保健指導ができるよう職員一同心がけています。

### ～中学3年生の健康診断～

錦町の現状として、中学生の親世代にあたる30～50代の健診結果から、「糖代謝異常」や「脂質代謝異常」が見受けられる方が半数を占めていることが分かっており、若い頃から血管内皮障害が起きていることが考えられます。

そこで、若い世代への「健康に対する意識づけ」や「早期介入」を目的に、中学3年生を対象とした健康診断（特定健診と同等内容の健診）を平成28年度から実施しています。

この中学3年生の健康診断を開始するにあたって、健康づくり推進員で構成される“健康づくり推進協議会”の中で協議検討してきました。

本町では、幼児健診や特定健診はあるものの、中学生の健康状態や生活習慣が把握できていない現状から、中学生健診実施の必要性について、教育委員会や中学校へ説明し、開始することができました。

本事業を開始するまでの経緯※4は次のとおりです。

※4 中学3年生の健康診断を開始するまでの経緯

年度	時期	内容	関係機関
平成27年度 (準備期)	11月 3月	健康づくり推進協議会で町の健康課題について、ライフステージごとの健康状況を提示し、学童期の健康状況が本町では把握できていない現状について協議。	健康づくり推進協議会 教育委員会 国保
平成28～30年度 (健診実施)	5月	ヘルスアップ事業で予算を確保。 (国保分のみ)	国保
	6月	教育委員会及び中学校と打合せを行い、健診実施の依頼。	教育委員会 中学校 国保
	7月	学年PTA時に保護者に説明し、承諾書を配付。承諾書の提出があった生徒に健康診断を実施。(夏休み期間に中学校で実施)	中学校 健診機関
	8月	判定基準について、学校医(町医)に相談。学年の親子行事で、健診結果説明会を集団で実施。	学校医(町医) 健診機関
	11月	町の広報誌に健診結果を掲載。	企画課
	12月	HbA1c5.6%以上の生徒を対象に、HbA1c・随時血糖の再検査を実施。(昼休み・放課後)検査結果は保健センターで個別対応。生徒と保護者にアンケート実施。	中学校 教育委員会



健診対象を中学3年生にした理由を教えてください

中学3年生になると、理科や保健体育の授業を通して「体の仕組み」や「血液の流れ」を学習します。そのため、自身の健診結果を理解して生活改善に活かせるよう、中学3年生を対象としています。



受診率を教えてください

受診率は下表<sup>※5</sup>のとおりです。本事業を開始した平成28年度は、保護者から承諾書をいただいた生徒のみ受診していただきました。

平成29年度からは、学校の先生方に承諾書の提出まで協力いただいたことや、前年度に健診を受診した生徒の保護者の口コミなどで前年度以上に受診希望者が増えました。

平成30年度には、受診率100%となるなど想像以上の結果となっています。

※5 受診率の推移

年度	対象者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)
平成30年度	114	114	100.0
平成29年度	128	120	93.8
平成28年度	120	94	78.3





健診後の結果はどのような形でお知らせしていますか

8月に学校行事の一環として、結果説明会を開催しており、本町の保健師・管理栄養士、運動指導士が説明を行っています。

保健師は、健診結果表の見方や代謝・インスリンの働きなどについての説明を、管理栄養士は体に合った食べ方について、運動指導士は家庭でできる簡単な運動についてそれぞれの専門分野の視点から説明を行います。

また、HbA1c5.6%以上の生徒については、個別指導を行うこととし、血糖値とHbA1cを5か月後に再検査しています。再検査では、個別指導対象者の9割で数値の改善がみられました。

さらに、8月に行われた結果説明会を受け、食事や運動に気をつけた生徒の中にはHbA1cの値が再検査時に0.4%近く下がった生徒も見受けられました。

個別指導後にとったアンケートから、「食事の時、野菜から食べるようにした」、「肉と魚をバランスよく食べるようにした」、「毎日走っている」などの感想が聞かれ、生活改善に努めた結果が反映されていると実感しています。

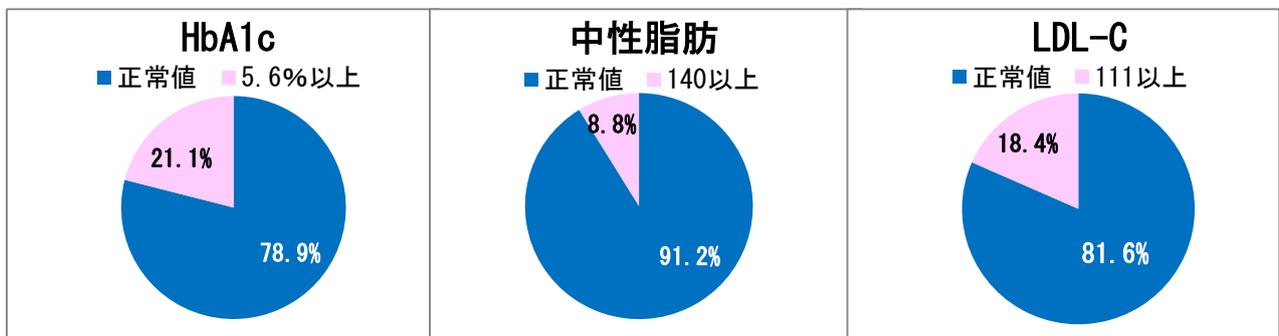


“中学3年生の健康診断”を通して分かったことを教えてください

先にも述べたように、錦町は、中学生の親世代の健診結果から「糖代謝異常」や「脂質代謝異常」が見受けられる方の割合が半数を占めている状況であるため、子の世代も同様の結果になるのではないかと考えていました。

実際に、健診結果から分かったことは、結果集計表<sup>※6</sup>のとおりです。

※6 結果集計表



平成30年度は中学3年生の21.1%（24人）が、HbA1c5.6%以上と基準値以上であり、中にはHbA1c6.0%以上の生徒もいました。年度によっては約3人に1人が基準値以上という結果でした。また、空腹時血糖が100以上の生徒が3人おり、親に糖尿病の遺伝の疑いがある生徒もいました。

健診後4か月程度経過した際に親子にとったアンケートでは、約7割の生徒が「大人になって健診を受けたい」と希望しており、本事業が、将来健診を受ける際の動機付けになっていることが分かりました。

“中学3年生の健康診断”の取り組みや結果については、町の広報誌に掲載し、町民へ健診の大切さについて啓発しています。

将来の健康状態改善のため、子どもの頃から食事や運動などの生活習慣に関心をもち、健診の大切さにも気づいてもらえるよう、事業を継続したいと考えています。

## まちの見どころ

戦争末期の情勢と人々の生活を肌で感じる

### 「山の中の海軍の町 にしき ひみつ基地ミュージアム」

(人吉海軍航空基地跡)



史料館(撮影：中村絵)

1943年、「人吉海軍航空基地」は、九州山地に囲まれた海のない人吉盆地につくられました。

錦町と相良村につくられた広大な飛行場や教育施設、無数の地下施設が、なぜつくられ、どのような活動をしていたのか、地域の人々とどのような関わりがあったのか。

「山の中の海軍の町 にしき ひみつ基地ミュージアム」は、戦争末期の情勢と地元の人々の生活を肌で感じる「フィールドミュージアム」の玄関です。

当時を生きた人々の証言や残されたものを通して、命の尊さや平和の大切さについて考えることを願って昨年8月1日にオープンしました。



ガイドツアーの様子

#### 展 示

常設展示では、当時の戦況に合わせて基地の役割や活動が変化する様子を、大型の壁面年表で解説します。

また、基地跡に関連する発掘品や、戦争体験者の証言映像から、当時そこにいた訓練生や地域の人々の生活、基地の様子、戦争の悲惨さを感じることができます。

#### ガイドツアー

ひみつ基地ミュージアムでは、施設周辺に広がる戦跡を体験するガイドツアーを実施しています。

錦町の観光協会の認定を受けたガイドと共に現地を訪れ、当時の戦争体験者の証言・エピソードを交えて解説します。

#### ひみつ基地ミュージアム 3つの特徴

#### 外部遺構

錦町と相良村に残る当基地跡は、終戦から現在に至るまで、その風景は大きく変わっていません。